

FEB 14 1932

林田盛雄創作紙

世には屢々、無智之輩に人々限つて、人々
友に得て、~~世に~~より。もうた。

世に多き、世に、教養や世に、
泥に、た、一本、突て、
か、た。

童く、世に、歩り、人々、
世に、た、人々、
世に、た、人々、

世に、た、人々、
世に、た、人々、
世に、た、人々、

世に、た、人々、
世に、た、人々、
世に、た、人々、

世に、た、人々、
世に、た、人々、
世に、た、人々、

世に、た、人々、
世に、た、人々、
世に、た、人々、

世に、た、人々、
世に、た、人々、
世に、た、人々、

世に、た、人々、
世に、た、人々、
世に、た、人々、

世に、た、人々、
世に、た、人々、
世に、た、人々、

いふ友主義、主観、流儀、偏見にたつて、その
流の甚には、人の善惡を無に支配するもの、
心は力強く、衝動も、^かなく、^はたつもの。と
平常停息する。

その心も動かさず、感情を操り動かすものは
事実を通つて、顯はれる感情の批判は、
それは古く、感情の批判と言ふのは、理論
や理智に訴へて、^の直接感情に訴へて
交渉する批判である。

傷れた文藝を作るのは、事実を批判する感情
の波が大きい。
知性と科学の正確を、^の如何に現実に主観
12も、人同様の感情生活は、^のさうさう、^の機械
は、^の通ふの、^のある。

主観の友も、^の出づる、^の勤め、^のと、
けい、^の新は、^の話、^のたつ、^の生活、^のなり、^の経験
なり、^の現実、^の実を批判する文学、^のある、^の力、^の能
く直接、^の作者の感情、^の美、^のさ、^の本、^の同時、^の
その実感を通つて、^の作者の、^の美、^のさ、^の本、^の同時、^の

作る。――「作呂」は、その理のひたひた、
七分の愚後、三分の理智加輝のひたひた、
此天性の心。――「ロ」は「リ」や「之」の字と
も、龍施流のたて馬鹿の如き一たりのた
いで、――「ロ」は生活の冠を、――「之」は情熱と、感
後、――「鉄」は、探り下りた、現実を指し示す一
し、――「之」は「た」。

之等は、――「探」も、――「論」も、――「之」も、
――「之」は「た」の波紋の如き。

舊日
感
昔
十
之
道
德

恋 一 二 増 四 人生 を 悲 し ち て 一 は 恋 なく
 悲 一 四 人 生 を 悲 し ち 者 に 勝 る 。 と 言 へ ば
 恋 久 金 権 に 支 配 せ ば 木 下 時 分 心 は 無 事 加 算 了

あ
ゝ
青
身
か
て
め
を
恋
一
た
。

香
年
は
努
佛
音
ひ
乙
女
は
犬
音
生
乙
子
子
。

書
氣
12
、
志
9
勝
利
者
12
方
子
12
、
金
力
生
14

七
 五
 九
 一
 二
 三
 四
 六
 八
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

德
 上
 層
 く
 乙
 乙
 走
 .
 乙
 一
 乙
 乙
 女
 9
 策
 親
 乙
 乙
 女
 乙

遊學了當易幸福字遊
ハ
あ
了
ア
を
讀
リ
過

主
1
4.2
種
解
1
2
2
3
5
12
.
青
年
は
、
友
人
知
友

12
志
卷
9
江
過
主
誦
誦
下
小
乍
フ
・
乙
女
に
告
傳
を

半
一
入
ま
后
フ
。
毫
変
地
カ、フ
后
、
。
言
フ
ハ、フ
言
フ
フ

如
一
時
以
何
一
未
知
一
因
龍
道
德
一
一
何
當
之
未
一
一
女

の友親
友、
比
會人
を
吃
好
さ
に
、
旁
新
に
中
新

込
 12
 夫
 入
 す
 了
 た
 け
 の
 舞
 姓
 去
 後
 く
 の
 人
 に
 佛
 け
 じ

七
八
九
〇
女
を
書
奏
ヲ
恒
整
ヲ
海
に

と
人
之
生

実情、自由、現代の社會に、
 社會人として、勤むことも一途を走つて行か
 う。道に離れ、生活も一やうと、言ひ替へ、
 環境。犧牲、犠牲、たゞ、何うやら、確かな
 こと、信じて生活の、いかに、進むべきか。それ
 こそ、環境、後、の、際、に、一、つ、お、か、つ、た、一
 つ、の、境、遇、の、是、は、履、の、如、く、素、の、心、を、

理論	解
の	、
今式	実行
人々	は
当然	教訓
を	与
得	たり
場合	難
々々	行
物	を
的	に
に	。
解決	

上
系
系
了
等
.
子
个
指
斗
欠
却
了

高
 か
 っ
 っ
 で
 も
 、
 堪
 に
 で
 も
 、
 金
 銭、
 を
 遣
 不
 成、

之
方
子
古
夕
、

吃
之
和
乙
乙
天
西
心
好
了
0
五
牛

今世は、
浮遊生活の
人々の一

一、新を古の
より
の
り
あ
る

意
何
金
乙
何
置
一
女
。
人
金
何
忘
事
偶

偉大なる我輩は

武
器
方
く
裁
別
者
何
人
に
あ
る
と
し
か
ら
ぬ
こ
と

も
た
い
。 つ
ま
り
現
代
人
の
偉
大
な
こ
と
を
い
ふ
と
は
金

を
持
つ
こ
と
が
一
つ
で
あ
る
。
と
僕
は
身
を
う
ま
え
る

満州も日本に委ねる。

満州の軍事上の様子は、此々々々人々より、率
領面、政略に於て、一段落を告げたるやうであ
る。残るは、此に依り満洲の政治の計畫、統制
のより、外に何れも、無きに過ぎ、我々の満
洲利権保護は固より遠く程の確然と云ふべき
日時、王の第一歩より日本は、我々の
回響を以て日本に對する朝鮮、滿州四省は新國家
の建設宣言を述べ、其の意を以て回響を以て

設置、制憲は、支那要人の活躍するに其風
が下るより。之も既に、我々の日本軍勢の
我々の通りの計畫之言に於て、其の
現世のその支那の現状、軍情の
我々の、今更に其のすべしと云ふなり。
我々の、其のそのなり。我々の、其の
二後、其のそのなり。我々の、其の
疑くた満州は、日本が生半端にあれば、
日本は今更のそのなり。
其、其のそのなり。其の、其のそのなり。

JAN 1 1932

03

我、又軍部の急務になり、外務省の要を脱し、
一、院の外交に専ら従事し、実行すべしと
思ふた。

[illegible]

此等不共回軍事秋結等如
と
3
1
2
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
8

と
公
本
に
向
う

用
こ
ろ
に
お
友
の
現
状
を
手
紙
に

1. 思
2. 失
3. 思
4. 失
5. 思
6. 失
7. 思
8. 失
9. 思
10. 失
11. 思
12. 失
13. 思
14. 失
15. 思
16. 失
17. 思
18. 失
19. 思
20. 失
21. 思
22. 失
23. 思
24. 失
25. 思
26. 失
27. 思
28. 失
29. 思
30. 失
31. 思
32. 失
33. 思
34. 失
35. 思
36. 失
37. 思
38. 失
39. 思
40. 失
41. 思
42. 失
43. 思
44. 失
45. 思
46. 失
47. 思
48. 失
49. 思
50. 失
51. 思
52. 失
53. 思
54. 失
55. 思
56. 失
57. 思
58. 失
59. 思
60. 失
61. 思
62. 失
63. 思
64. 失
65. 思
66. 失
67. 思
68. 失
69. 思
70. 失
71. 思
72. 失
73. 思
74. 失
75. 思
76. 失
77. 思
78. 失
79. 思
80. 失
81. 思
82. 失
83. 思
84. 失
85. 思
86. 失
87. 思
88. 失
89. 思
90. 失
91. 思
92. 失
93. 思
94. 失
95. 思
96. 失
97. 思
98. 失
99. 思
100. 失

2
 18
 2
 3
 6
 9
 12
 15
 18
 21
 24
 27
 30
 33
 36
 39
 42
 45
 48
 51
 54
 57
 60
 63
 66
 69
 72
 75
 78
 81
 84
 87
 90
 93
 96
 99
 102
 105
 108
 111
 114
 117
 120
 123
 126
 129
 132
 135
 138
 141
 144
 147
 150
 153
 156
 159
 162
 165
 168
 171
 174
 177
 180
 183
 186
 189
 192
 195
 198
 201
 204
 207
 210
 213
 216
 219
 222
 225
 228
 231
 234
 237
 240
 243
 246
 249
 252
 255
 258
 261
 264
 267
 270
 273
 276
 279
 282
 285
 288
 291
 294
 297
 300
 303
 306
 309
 312
 315
 318
 321
 324
 327
 330
 333
 336
 339
 342
 345
 348
 351
 354
 357
 360
 363
 366
 369
 372
 375
 378
 381
 384
 387
 390
 393
 396
 399
 402
 405
 408
 411
 414
 417
 420
 423
 426
 429
 432
 435
 438
 441
 444
 447
 450
 453
 456
 459
 462
 465
 468
 471
 474
 477
 480
 483
 486
 489
 492
 495
 498
 501
 504
 507
 510
 513
 516
 519
 522
 525
 528
 531
 534
 537
 540
 543
 546
 549
 552
 555
 558
 561
 564
 567
 570
 573
 576
 579
 582
 585
 588
 591
 594
 597
 600
 603
 606
 609
 612
 615
 618
 621
 624
 627
 630
 633
 636
 639
 642
 645
 648
 651
 654
 657
 660
 663
 666
 669
 672
 675
 678
 681
 684
 687
 690
 693
 696
 699
 702
 705
 708
 711
 714
 717
 720
 723
 726
 729
 732
 735
 738
 741
 744
 747
 750
 753
 756
 759
 762
 765
 768
 771
 774
 777
 780
 783
 786
 789
 792
 795
 798
 801
 804
 807
 810
 813
 816
 819
 822
 825
 828
 831
 834
 837
 840
 843
 846
 849
 852
 855
 858
 861
 864
 867
 870
 873
 876
 879
 882
 885
 888
 891
 894
 897
 900
 903
 906
 909
 912
 915
 918
 921
 924
 927
 930
 933
 936
 939
 942
 945
 948
 951
 954
 957
 960
 963
 966
 969
 972
 975
 978
 981
 984
 987
 990
 993
 996
 999
 1002
 1005
 1008
 1011
 1014
 1017
 1020
 1023
 1026
 1029
 1032
 1035
 1038
 1041
 1044
 1047
 1050
 1053
 1056
 1059
 1062
 1065
 1068
 1071
 1074
 1077
 1080
 1083
 1086
 1089
 1092
 1095
 1098
 1101
 1104
 1107
 1110
 1113
 1116
 1119
 1122
 1125
 1128
 1131
 1134
 1137
 1140
 1143
 1146
 1149
 1152
 1155
 1158
 1161
 1164
 1167
 1170
 1173
 1176
 1179
 1182
 1185
 1188
 1191
 1194
 1197
 1200
 1203
 1206
 1209
 1212
 1215
 1218
 1221
 1224
 1227
 1230
 1233
 1236
 1239
 1242
 1245
 1248
 1251
 1254
 1257
 1260
 1263
 1266
 1269
 1272
 1275
 1278
 1281
 1284
 1287
 1290
 1293
 1296
 1299
 1302
 1305
 1308
 1311
 1314
 1317
 1320
 1323
 1326
 1329
 1332
 1335
 1338
 1341
 1344
 1347
 1350
 1353
 1356
 1359
 1362
 1365
 1368
 1371
 1374
 1377
 1380
 1383
 1386
 1389
 1392
 1395
 1398
 1401
 1404
 1407
 1410
 1413
 1416
 1419
 1422
 1425
 1428
 1431
 1434
 1437
 1440
 1443
 1446
 1449
 1452
 1455
 1458
 1461
 1464
 1467
 1470
 1473
 1476
 1479
 1482

大東回地七見
寄一以予人
加始去
致可活通回

の如く、
荷造りに
て、人
子等に
む
更に
同義

12. 我的主權在
於我
自己
手中
。

國許下記
2
旅費
12
9
傳
造
12
2
1
2
1
1
1

り
可
なり
り
り
あ
あ
あ

ト
ニ
く
こ
し
し

、
屋敷
裏の
ス
ス
キ

了
知

に
生
た
い

第九
元
本
七
意
乃
乃
如
外
交
正
如
如
乙
七
乙
乙

た
い
む
の
て
あ
る
.
そ
の
ま
じ
、
銭
法
師
、
軍
功
に
あ
る

文部省
余
に
モ
~~事務~~
~~事務~~
~~事務~~
事務
加
成
に
及
す

27

蒲州を日本に
送せ邦の
乙
ろ
ろ
ー
カリ

卷一
潛水園
9
園
文
政
治
家
集

[illegible]

仕事 着るす、

恋愛は暴力だ。と云ふ男が言ふ。

スーパーマン等の恋愛は、増幅のやうに、千

リ／＼と燃え乍ら身を焦がし、そしてはため。

電燈のやうに、い／＼と燃え、ぱ／＼と消え、あ

新時代の如きと言ふ。

たか、現世のセーラー、おー、おー、は、

金で遊ぶ。つまり、淫蕩と恋の勝負を争は

す。人たの／＼、金で機嫌を買ふことか、生

き、肉体を置場に如き来る。

世も男も、新時代の、社会生活には、金に愛

を許し、愛に肉を許す。／＼と、愛は一個

人の所有として、存在せたり。

超人と夫。それは、近代女性、酷なくとも

アメリカのオニセの中には、二人の男を愛す

する者が多かり。オニセ、乙女、千代、／＼と

口にすゝの七匹、／＼、／＼、／＼、／＼、／＼、

た。

金一に泳ぎ、／＼、／＼、／＼、／＼、／＼、／＼、

白樺創作用紙（C形）

10×20

JAN 10 1932

人々。白鶴。さういふ風な人々。街の古。女人。風景。近代。色。大。時。目的。に。割
 リ。切。れ。た。る。迄。夢。を。来。る。一。
 之。通。學。の。業。さう。言。め。言。事。又。主。意。生。活
 と。解。し。事。た。う。う。の。
 五。人。の。男。女。一。人。の。女。以。幸。福。を。思。つ。た。り。
 そ。う。考。へ。の。男。は。一。人。の。女。に。親。如。く。生。活。
 右。の。女。は。ハ。リ。ウ。の。最。近。の。親。如。事。件。は。お。世。
 外。内。息。女。余。に。モ。時。々。端。々。現。れ。る。事。
 之。人。物。性。の。展。望。さう。言。う。た。病。の。大。化。
 命。運。、定。命。を。持。つ。た。人。可。解。、意。志。、運。命。
 だ。め。う。い。し。
 命。運。の。運。命。は。確。々。ホ。ー。に。最。大。運。命。を。也。
 一。二。回。も。う。や。う。な。た。う。
 来。る。人。も。見。る。人。も。その。セ。ン。一。般。に。
 の。運。命。的。な。運。命。に。お。き。た。外。は。な。い。
 包。院。、そ。の。本。質。に。自。動。車。と。他。と。衝。突。す。
 現。在。の。外。の。い。は。か。い。の。本。質。自。身。の。他。日。の。用。に。
 世。に。な。る。た。う。迄。自。身。の。用。に。使。用。せ。ら。れ。る。た。う。
 の。た。う。多。く。の。運。命。は。悲。慘。な。現。在。の。世。に。

金之人に
返す
折る
逆ふ
結婚
人々

女
魚
考
又
ナ
之
言
立
巧
乙
受
也
一

あまの
いづれ
に
金
を
う
け
と
し
て
、
を
、
を
、
を

傳道在歐州
文全在斯
斯考尤

看針
15
也
文
15
金
七
能
藏
才
了
。 併
し
金
八

輕
夢
9
悲
意
在
此
意
才
子
。

亦多生此等歡心，
解之，
二也，
三，
，

三本木
現代
書氣
多
人
の
望
た
く
る
る

す 2 々
3 9 點 27
口 じ や 2 3
竹 筭
綾 女

4
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

乙
光
和
平
又
レ
ヤ
、
以
重
生
40
道
徳
教
士

一、九比全光識を、
必加し毛讀難すゝも
ナ
ひは

た
し
き

神は全能の言、善をなすをすめ。

悪意は、悪を成す。

判断は、それ分善であり、悪であるのは

善は中に、善は善性に對する。いさである。

個性は、性格であり、人格である。

作品、文藝に於て特にさう言う。

知識は、物なりとも現象の化は、人格を

獲得に（理想に導く）

單純は、事象の反映であり、真義にもある。

個性は人格を創り出し、昇華は、

人格と個性を磨き上げ、やう。

禮節告知

一 書 女 子 以 下 如 現 在 之 氣 配 リ 神 節

を
新
己
友
、
ぬ
た
、
せ
に
乙
木
を
、
資
本
家
の
幅
了

道本家の集家が、まあ、亭園主兼の同家

2530

日本は
上海に
、
通商と
剣を
持つ
〜
行つ
た

日本製品を
買ふ所、
日本毛
燭、
12
一
刺、
蒼、
ハ

人
や
う
了
か
。
弱
口
者
所
抱
抱
た
。
致
在
毛
矢
フ
既

氏族時代、
人々
封建時代、
近世資本主義時代

日
下
、
足
の
影
陽カ
に
か
う
、
記
、
毛
の
大
勝チ

27	4	3	2
----	---	---	---

日本上海点校了

フ
ニ
ハ
カ
コ
ク
ケ

果
此
三
人
で
一
つ
の
持
場
を
分
割
す
る
や
う
な

七
 一
 二
 五
 三
 〇
 六
 同
 望
 現
 の
 も
 九
 は
 .
 七
 同
 望
 現
 に

一
ヤ
フ
一
ニ
共
共
入
主
現
す
る
。 加
日
五
十
元
入

3
5
9
18
.
早
く
会
つ
て
ア
ッ
ー
び
軍
艦
を
送
る

人
18
金
す
と
銀
如
生
子
b
如
持
つ
て
又
持

7
2
2
た
4
、
鋤
く
大
き
く
か
3
。

12
 主
 新
 前
 坑
 制
 十
 包
 乙
 包
 八
 街

突し、時、敏感の文、如、型、け、し、万、事、に、血、を、流、
す、の、で、あ、る、。 そ、し、て、信、頼、は、。 け、た、う、目、に
あ、る、た、た、け、の、糧、に、思、は、た、る、の、で、あ、る、。
富、ん、心、嬌、譲、友、時、代、は、も、ろ、現、代、に、は、望、め、た、る、
富、ん、心、謙、遜、で、あ、る、友、。 沈、黙、を、知、ん、で、井、戸、
に、は、。 富、ん、人、知、る、愚、痴、に、。 陥、る、友、時、代、に、た、る、
た、今、で、あ、る、。
富、ん、富、ん、と、る、や、う、。 戦、後、の、人、生、の、現、象、の、
傳、達、に、た、る、と、あ、る、。
同、じ、同、じ、の、大、き、な、か、し、り、か、。 い、う、に、は、。
か、し、り、に、あ、る、る、回、る、あ、る、た、る、る、に、。
そ、の、時、は、。 ~~世~~に、。 債、権、の、生、き、る、あ、る、世、の、中、に、
は、突、し、る、あ、る、ま、い、。 ま、た、か、た、。 富、強、の、時、代、か、な、。

生
活に
窮した
場合、
あちて
から金を
借り
る。た
りか
ら押へ
取った。
金も備
わらず
なつた。
人非人
たる世
間の心
なり。

林田盛雄創作紙

か、ヤ、ス、電、気、電、話、機、器、を、引、下、し、衣、服、を、
入、る、た、く、く、に、い、ん、た、生、活、を、あ、ま、か、
營、養、不、良、に、お、お、を、陥、う、と、あ、う、は、幸、中、の、幸、い、な、
る、

學、校、を、一、つ、時、に、即、め、し、不、學、校、の、學、校、に、
誰、れ、に、で、も、と、あ、う、に、仲、之、を、文、通、信、を、あ、う、と、
く、遠、方、理、由、事、業、を、あ、う、と、あ、う、に、あ、う、と、
る、。あ、う、何、故、に、あ、う、に、文、通、信、を、あ、う、と、
た、。釣、り、合、つ、た、生、活、。月、絶、た、け、あ、う、に、生、活、
お、お、の、事、業、に、生、活、を、あ、う、と、あ、う、に、あ、う、と、
な、け、あ、う、に、あ、う、と、

恐、ろ、く、今、時、に、あ、う、に、あ、う、に、あ、う、に、
ろ、ろ、と、あ、う、に、あ、う、に、あ、う、に、あ、う、に、
生、活、の、窮、乏、。失、業、の、波、紋、は、あ、う、に、あ、う、に、
差、支、を、あ、う、に、あ、う、に、あ、う、に、あ、う、に、
生、活、を、あ、う、に、あ、う、に、あ、う、に、あ、う、に、
三、食、を、二、食、に、し、て、あ、う、に、あ、う、に、あ、う、に、
学、校、を、あ、う、に、あ、う、に、あ、う、に、あ、う、に、
ろ、ろ、と、あ、う、に、あ、う、に、あ、う、に、あ、う、に、
の、文、通、信、を、あ、う、に、あ、う、に、あ、う、に、あ、う、に、

24
 下
 9
 生
 25
 走
 1
 2
 .
 一
 桶
 算上
 12
 連
 子

すゝ、心の潔さ、白作の輝き、心、魅えろ中と

り
又
3
生
15
12
勢
牛
を
食
へ
て
あ
ら
る

つまらぬ、
 牛
 か
 け
 刺し
 の
 辻
 會
 面
 の
 才
 も
 リ
 ク
 等

15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

1
 0
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

取
 親
 芝
 仁
 霧
 士
 仁
 出
 了
 子
 生
 生
 郭
 以
 一
 牛
 也
 吃

と
し
誰
本
か
血
空
人
なり
知
友
方
り
に
願
く
い

子
の
将
事
の
而
性
教
育
も
心
持
の
け
こ
る、
詔
の
所
女
の
こ

15
12
1
5
0

子生
の
為
性
を
野
之
中
に
す
る
に
成
る
に
た
り

親
は
夢
さ
す
に
き
も
9
た
た
た
俊
は
親
山

い、
た
受
悟
を
成
に
な
り
の
た
と
我
好
に
抗
の
本

後
白
世
處
子
悔
了
は
た
い
た
る
る
か
も

小説の骨

小説の骨をいふは、筋をいふ。筋とは、人物の行動の順序をいふ。

筋には、逆説的な筋をもあつた。

美人は、男の如き、と云ふ。理窟

筋の骨格にうつたへるには、如何に筋をいふ。

七の人は、男をいふ。男は、男をいふ。男は、男をいふ。

筋は、男をいふ。男は、男をいふ。男は、男をいふ。

美人は、男をいふ。男は、男をいふ。男は、男をいふ。

美人は、男をいふ。男は、男をいふ。男は、男をいふ。

美人は、男をいふ。男は、男をいふ。男は、男をいふ。

美人は、男をいふ。男は、男をいふ。男は、男をいふ。

美人は、男をいふ。男は、男をいふ。男は、男をいふ。

美人は、男をいふ。男は、男をいふ。男は、男をいふ。

美人は、男をいふ。男は、男をいふ。男は、男をいふ。

美人は、男をいふ。男は、男をいふ。男は、男をいふ。

美人は、男をいふ。男は、男をいふ。男は、男をいふ。

多く人の感得生活は斯う多岐に渡り、

尋常のみに止るものがある。

理論的知識は情愛に比例するものである。

然るに、さういふ人に出づるエラサに自然の力がある。

性根を掘り出した。さういふ人に教養を授けようといふ。

世に種々論交は情熱家だと言ふ。

情熱家といふ理論家を説く者もたつ。

一直後に生ずる性根を説くといふ理論の理人は

利かたないが、かゝる一直後をたけ、後には

かゝる面々全知に力なすゝてはなつ。

中絶するに、力を説く理論に、それを感得の

理と血と肉と包み、柔かに受け入れ、

なやめ、

骨の中にもある理根を、外の肉に隠して

やばい、やばい、肉の中にもあるものは、中に隠す、

さういふ、

柔かに、

はけいれろ

かろい、お小女の、大娘の、意味と、純情と、

知識、怒れ、生、笑、古、心、情、は、三、七、九、百、迄、

基礎、を、創、る、もの、は、た、い、か、知、は、さ、う、思、ふ、

お、先、我、の、か、言、け、と、来、た、り、特、の、言、音、制、

受、た、り、時、代、友、交、た、り、を、体、験、し、始、め、

我、と、今日、の、教、育、を、云、々、と、来、た、り、た、か、私、は、
（教育の、教育を云々）

教育、は、教、科、書、に、指、さ、し、て、新、旧、の、区、別、を、

より、教育、を、画、し、た、り、国、家、目、の、小、学、年、の、

情、操、知、識、を、増、え、た、り、交、換、し、た、り、更、に、美、化、を、

を、取、く、心、算、代、算、の、新、算、の、た、心、理、快、楽、笑、を、

の、あ、る、こ、の、生活、の、無、利、無、害、の、観、念、を、示、

教、へ、た、り、に、信、じ、て、あ、る、た、

現在、の、学、校、教育、に、付、し、て、は、た、提、議、を、説、

話、一、步、進、ん、で、大、学、教育、の、轉、換、を、説、く、た、り、

才、た、人、才、を、育、つ、の、政、策、も、亦、宣、た、る、た、友、と、思、惟、

さ、た、ま、の、こ、の、あ、る、

封建、制、下、の、打、金、船、政、か、ら、偉、人、傑、出、の、

輩、を、育、つ、理、由、も、そ、う、時、代、の、進、歩、を、知、る、た、り、

一、二、の、點、を、お、も、か、し、た、り、人、格、を、生、か、し、た、り、

さう言ふ時代は、
豊城の都府化と言ふより、
に海へて、労働力と云ふ。大都會
の存在を確立せよ。新時代の来ると信ずる。
生産面と消費面の地方分散化が、富強の材料
である。諸君は、
其は甲斐・との巨利、利根一帯の社会建設
人々を生かすべくして、
さう言ふ時代は、

変
自
身
の
質
の
研
究
す
る
に
あ
ら
ず
も
そ
の
後

却
會
・
資本
、
人
口
の
増
加
が
現
代
の
商
業
制

誰知知友
總乙
一
般化
無有相區
17
3

ナS
整
ニ
九
た
以
會
27
あ
う
お
ゐ
た
う
め
o

全權、
道德、
教育、
新教、
政治、
經濟、

支 配
す
る
て
こ
の
事
人
回
心
の
體
立
意
講
は
下
く

て
は
な
る
~~は~~め
。

感惜 1. 書畫 1. 人同 本能 1. 獨立

乙
九
乙
差
、
真
仁
晴
以
、
人
遠
公
勇
敵
12
確
得
了

へ
き
ち
ろ
た
り

秘密・常習

世には秘密・常習音がいくつもある。秘密は直ぐにバレる

秘密を持つた。と書き。大陽の前には偽りのもの

のものが列を占めたと書き。正しう行

う。朗らかな生活。浮く感情の動きに秘密が

ある。これは知らぬ。加加、能くあるのは

秘密を保つ。守りてはよく。権利を保護する。訓

る。この生活の進行の故である。

言はぬ加筆、と秘密が、属々、人も幸福に

4、急轉する。過りから救ふことかあるのだ、

善美に秘密を行使する時、場合に通じる。

秘密が人を(誘導)入る、悲哀に戸を叩き、や

うな事件を惹起する場合、我々には秘密の罪悪を

窮極する。排撃する

秘密は、總力した場所、總力した人々の心に

喰ひ込め、悲喜劇を上演する。

最近、ある男が、支那人某にから、囁きを

買つて来た。この男は禁断であつて、男

女の性行を、~~禁断~~禁断に限りて使用したものの

林田盛雄

FEB 8 1947

で、これを使用する権利を、女性に授け、
致に達する、衡敵の所益利を云ふ。

この禁衛を秘密に使用するが、相手には謝る
し、用ひつゝの目録で、二人の男が激論を交
した。

薬品を用ひるゝは病状に對する對照的な療

法として互に也に各も、薬品の使用は、神の

自外に反する。併も相手は秘薬に伏するゝは

欺瞞行為であつた。一人の男が主張したのには。

他の男は、あく迄秘薬に実行するゝ切實に

た。

その男は、その薬品持つゝ日本に歸朝した

人た。

私は、斯うしたヤリドゥ初交友快楽遂又心

は、單に罪悪感ばかり。生程的にも一個の感

性女子女を、阿片の中毒患者に贈り、

つゝ思ふ。更に、それによつて、自己を贖

着する者ではなかつた。

或る場合、つまり、秘密が、程の秘密を封

ち明けたりも、相手も幸福に導く、と信じて

常識の信にふれた。秘密を持つ傍でもあつた。林田盛雄創作用紙
が秘密が、他日に漏れを招く。相手も、案づいてゐた。

正、命、文、法、則

突、本、取、こ、と、目、院、徳、創、的、方、こ、人、を、
 け、り、言、い、め、る、~~徳~~の、藝、也、を、こ、て、邪、心、を、
 の、た、う、を、歩、き、~~非~~世人、の、眼、を、導、け、た、け、
 や、う、。解、謂、人、を、釣、り、也、や、う、友、事、を、
 心、こ、め、る、人、に、充、て、め、る、~~か~~現代、人、の、世、相、
 を、あ、ら、う、。

社、會、生、活、に、美、で、あ、る、我、ら、は、さ、う、完、成、目、

院、の、万、事、を、成、し、~~得、ぬ、目、的、に、中、に、~~得、ぬ、目、的、に、
 才、一、せ、う、す、の、生、~~生~~線、に、は、不、之、律、が、あ、る、

法、律、道、徳、の、社、會、人、と、こ、の、飛、躍、お、冒、険、を、

一、收、り、果、に、登、り、眼、に、成、わ、る、あ、る、。

文、法、生、活、に、は、前、述、を、諸、の、不、之、律、が、あ、る、。

文、法、に、こ、の、持、つ、取、扱、に、こ、の、不、之、律、が、あ、る、
 也、~~あ、る、~~。

解、り、よ、い、證、の、遊、戯、に、つ、て、も、言、う、こ、。

特、に、著、花、れ、~~事、業~~、總、の、取、扱、が、法、

則、の、あ、る、新、に、在、る、と、い、ふ、。

「一定の道り」を歩くやうに決定してある。林田盛雄創作用紙
 そこに面白く描かれた。受取の辨別をされた。

理論の先か、実践の先か。

即ち、~~理論~~生ずるもの、即ち、~~理論~~生ずるもの。

も、~~理論~~相離し得る、一定の法則、

批評に生活を言及する。

物事に、金、銀、本、事、それらに、

その軌道と法則を捉へてゐる。そこに面白

いがある。その軌道から我々一人ひとりが、無業の

り、~~理論~~突発のあり、~~理論~~蓄積のあり、

獨創、それらから、~~理論~~法則に照りやす

い、~~理論~~絶対的存在しなうか。

獨創の、~~理論~~文律を、~~理論~~法則を、

それ、~~理論~~法則を、~~理論~~生成

の、~~理論~~法則を、~~理論~~生成

の、~~理論~~法則を、~~理論~~生成

の、~~理論~~法則を、~~理論~~生成

の、~~理論~~法則を、~~理論~~生成

の、~~理論~~法則を、~~理論~~生成

の、~~理論~~法則を、~~理論~~生成

の、~~理論~~法則を、~~理論~~生成

の、~~理論~~法則を、~~理論~~生成

の、~~理論~~法則を、~~理論~~生成

ものゆゑ、時代の中に光を放ち、最上のものの
かと持てたもの、不文律の支那の詩に高
ハ―セニ、美しき感じを與へたものである。
建てるものである。

併し、新時代が、その本を棄てた。無事に
棄てた人々や古く、出鱈目ではなない。
定る、親見である。必然の法を以て
と一々ある。

魂の、思ひ、生
人曰は、^心ふふたふたない。自由を棄てた。
自由を棄てた。

宗教に、社会に、家庭制度に、一々の
古き時より、警り、訓に。併し、實際にその
羈絆を脱し、古く、その自由、正確性、進歩
段階に、一歩進んだのである。

出鱈目、我、~~我~~隨にたのである。軌道を
持たぬ、特異、銅である。無事苦である。
そこ、面白、^心あう、^心あう。

人―人、な、^心お―心、野郎である。
新時代に、^心出、^心た、^心自惚、^心人々、^心三苦
も、然、^心た、^心あ、^心た、^心あ、^心つ、^心き、^心り、

[illegible][illegible]

國際聯盟の成立、米英佛、その心、対日連
 携、抗議、外資對、東洋の経済的壓
 迫、重慶包圍、眠るは將來、の了想、悲光
 であらう。今も南にも、將來の對世界大戦は、
 起り得ようか、支那を東洋純問題として起
 らざるや、平等主義、經濟學者、政治家、歴史
 學家、總て人々が聯念するに、我が日本
 政府も、緊要一番、大事を執つてゐるか、千
 年恒在、殘す幾星之否、やも計るべき、後
 ちともいふ。當時に、萬全を期す國民一
 致、行ふべき、待望するのみである。

子は、貧乏、母は母を、他人が教へてやる
田、信実の母だと思ふや、それと同じに
た。

心、禁ずやう、感ず、動き、
時代、元氣に、
動因、何も、
味、巧、
人、
神、
う、
斗、
一、
一、

心、禁ずやう、感ず、動き、
時代、元氣に、
動因、何も、
味、巧、
人、
神、
う、
斗、
一、
一、

恋愛と宿命論

嬰兒を抱いて、恋愛を麗く描く女性はい、母
と子愛格なり。男

男の情を肩に架けろ来、話す時、情愛を

感じ得た女は、恋愛の耳鳴りた、資格がある。

握りしなやう、相手の手の掌の暖熱と共に

信義を覚悟し得た女は、友だとの資格が缺

けさ来ゝるものだ。

かう言ふ理論は、三肢論に似て、理論と

言ふには余り北科学的な論議も知本め。併し

論は、果て、理論を超越した高層を相人いろ

るものだ。

最近、僕は、僕が知人の一人が、他、一人

と、愛をなく、金錢上のところから、言は、物作

たところから仲悪し、僕も、その14うに

も反格を、多し親愛を捨てゝみ、つ、幾見

となく、二人の友情の回復、手段を、たれ

が、信昌、破れた友情は、ほろろた刺さる

似て、枕前を思ふところには、方々教へ、心、僕は

[illegible]

金
12
~~五~~
5
0
三
木
七
十
四
二
五
六
一
五
五
二
五
一
一

昔
あ
人
か
、
と
し
こ
て
、
境
に
生
る
た
、

のは、相手の女、少しも當人を等しと見
 ない。醒睡作用が、いりやう思ひ偶心だ。
 あ。それ、幾十枚、
 政もあ、等と言ふ、は、宿常であつて、
 たり、先生は、授け難し、同じ理窟で、女
 と、^あ遠く交際、
 友人の、あつた、如何にも神秘な暗示のやう
 であつた。

人
心
は
右
に
向
ふ
と
思
は
れ
た
。

斯
く
言
ふ
快
楽
か
ら
。

人
は
愛
と
悲
し
み
に
達
す
。

新
讀
・
か
う
お
も
ひ
か
ら

1	古	編
2	信	12
言	7	十
7	2	3
古	2	言
望	2	子
合	12	2
12	依	2
0	1	12
	2	神
	、	呪
	角	80
	記	友
	9	超
	運	現
	命	実
	古	的
	史	方
	才	歸
	部	級

久	三
覺	一
生	二
一	
二	三
	木
信	木
仰	第
と	の
運	や
信	3
の	12
境	当
地	3
の	塔
境	
に	宿
上	命
本	語
3	

新
生
12
萬
(生
す
)
者
12
と
)
~
、

志學
 若春
 情盡
 深處
 挽
 古
 考身
 情

滑
爰
乙
乙
𠂔
了
𠂔
屯
𠂔
𠂔

𠂔
𠂔
𠂔
𠂔
𠂔
𠂔
𠂔
𠂔
𠂔
𠂔
𠂔
𠂔

飛
 9
 4
 5
 、
 僕
 16
 轉
 教
 方
 2
 7
 7
 27
 18
 2
 方
 7
 方
 10

言ふ、お前が参りて有様を、戦ひす人たゞ
 知る女やう。と契りて、~~来~~死に水を取
 りてやうたさうた。それ久し人持といふより也
 人の事秘してはたいか知る。

[illegible]

第
三
回
乙
三
12
和
18-7
覺
摩
も
う
た
ち
—

の
縁
も
あ
る
。

大
和
頭
18
、
軍
女
1
人
持
、
市
路
で
18
か
、
8

國文
幼
教
た
・
死
の
命
命
の
あ
る
。

生
は
て
う
先
より
松
く
。 9
教
へ
じ
あ
る

勤
事や
針金力、
高上、
子一
二
生さ
残、
た
勇

和
 の
 品
 大
 の
 留
 め
 各
 等
 二
 あり
 〃
 非
 正
 無
 所
 の
 各
 等

七	一	分	分	分	分	分
---	---	---	---	---	---	---

自
27
15
年
工
、
元
會
元
12
人
均
者
、
子
庭
27
15
年

か
さ
ろ
り
あ
る
。
い
ろ
は
手
跡
を
た
つ
も
目
あ
ら
ない
よ

字
~~在~~
人
平
和
27
取
米
18
~~和~~
15
10
1

文
遊
に
又
れ
ふ
男
乙
木
は
重
は
一
う
も
大
敵

と
乳
は
お
は
な
る
お
か
乳
は
と
う
な
の
お
め
な
る

15
時代
之
其
12
少
7
2
事
た

今日の事は、
お父さんの戦い
に勝つて
も、
それ
も

勤章もろろ。離婚といふ。うまくわけは

て。有。勤章には新。休。く。

勇取。い。た。い。事。も。あ。る。

日常に交。近。宣。華。に。あ。い。ま。る。勤。章。も。新。金。

も。も。ろ。ろ。子。罰。を。受。つ。て。年。々。意。に。定。入。つ。た。会。

士。み。た。り。に。不。平。な。事。を。第。一。品。つ。て。あ。る。用。意。が。

それ。あ。る。

仲。に。は。フ。レ。ー。キ。の。出。れ。た。自。動。車。が。た。り。に。

後。進。に。あ。い。ま。る。人。も。な。い。事。に。

衝突。し。た。り。、。轉。落。す。る。事。も。あ。る。色。男。と。直。け。

たり。ふ。義。理。を。け。る。細。君。が。そ。れ。に。あ。る。

要。す。と。に。勤。章。は。も。ろ。ろ。た。い。者。知。れ。る。も。

も。ろ。ろ。も。ろ。ろ。心。地。け。つ。て。平。和。な。時。も。

れ。あ。い。ま。る。も。ろ。ろ。も。ろ。ろ。も。ろ。ろ。も。ろ。ろ。も。

が。勤。章。は。時。々。場。合。で。下。り。て。あ。い。ま。る。心。地。け。

の。し。な。い。事。も。あ。る。人。と。時。々。場。合。の。心。地。け。

必要。な。決。だ。り。も。あ。る。人。と。時。々。場。合。の。心。地。け。

MAR 3 - 1932

ハヤしういソヤに婉ふあさか。
ホニニヤス。はり一人婉か。
ハヤしワハ。了り外に生すなま。
知識にあくうたのはよつか。
お腹か、あく本と家まで。氣を付けたいよ。

多端な人生には。操と悩ま。悲しかな。海

き起ころ。悩ま。悲しかな。逆境を突き破るに

は。絶やさ。努力の。操かな。苦さある。幸福は

と本自身に生れ。運命なや力。と。結果の。誰

細心の注意。運命なや力。と。結果の。誰

本も一様に。人生の。操かな。悲しかな。友

う。何かに。在る。幸福で。

何かに。在る。幸福で。

何かに。在る。幸福で。

何かに。在る。幸福で。

世に。女。口。腹。に。綴。れ。て。開。く。

[illegible]

現代の若くは人々には道徳が不足している。同時に

子女を養育する親戚、日本生まれの人々の老若男女

力に地味な女性、感化から海外に遠く離れた者、

方々、世帯主、時代は電化されるものがある。

新しい時代は、女性に執着する幸福が

これ、我々の如く、~~乱暴~~無業、と眉をひそめる生

活が、朝より晩まで生活として幾十年か、

の後の生活は、勤め人であるものかも知れない。

子供、~~女子~~教育の時代の欠点。勤め人、~~不~~勤

怠者の美名、~~と~~これに、~~之~~に、~~達~~達を促した

人、あるやうに思ふ。
 妻は、お金持で、
 人の友と別れて遊んで暮した。と言ふ娘は
 人に、先日夢見た如く、あつたのが塞がうな
 かつた。かゝる、今の新時代の、自動車や、
 うやオヤ、総岸映画、芝居、子供、
 懐は、
 かくた。と、昔ながらの、
 かゝた。と、今の、
 実行が可能か、
 と言ふ言ふ、
 果して来るか。

知
 同
 う
 あ
 へ

今
 人
 に

心
 も
 な
 い
 譯
 ひ
 ある

林田盛雄創作用紙

鷹の論

ぶつ力4才の或る短笛山説に、一人の騎士
 が美せに言ひおこす。その意をうたふ、騎士
 は一羽の財産を費し、今は一羽の鷹を持
 つの4。或る曰ふの美せ、
 うおれ古き騎士の館を訪ねる。もとねすべき
 何物もなう。騎士は終りにかの愛鷹を料理し
 て、飯を喰した。食了りて、美女を呼
 小年か？
 飯の鷹を煮る人にて。腹に料理せ
 るも同じ。騎士の心算に深く感動した。そ
 して永年の思ひこり一羽に喰うことゝ出
 だ。と言ふ話がある。
 小運命か一羽するに
 かけた鷹が必死をた。

誰れでも、必すや、突きつめた決心が
 う。そして失敗も。か、失敗に受ける鷹を
 へる。あるがうか。最後、切り餅を持つて
 る。うか。丁度よく皆に切り餅を配る
 とは、ふと敷く。又、その切餅、効果も
 出た。

乙ねは人生に生活して、此等関係にも
 林田盛雄創作用紙
 同時向頭も

此れ重なる事あり。又、時。

世は不景気なり。不景気に處する為め、片を
行ふに便し得れば可なり。

上海事件、南京事件は、日本對外國

間外之なり。日本は、切實に對する。

考へると、日本は、如何なるものか。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

又、南京事件は、南京に集るものなり。

教訓 2 15 2

Mar 25 1932

34
34
34
34

小針の
 増、
 糸は、
 大加
 後、
 の
 片
 物を
 揃
 へ
 小

黄、大、
定は
三本
一
の
無
の
、
た
と
て
ろ
の

可
元
想
友
て
。
足
ち
一
本
お
造
り
ル
お
う
二
、
大

大
下
十
一
ノ
ナ
。
シ
マ
ル
ト
ハ
大
大
有
難
ク

て
・
も
ろ
う
た
と
ち
大
ふ
い
す
る
や
ひ
す

こ
り
・

わ

中
收
故
入
二
吳
木
長
。

慥然
 乙
 乙
 何
 女
 子
 か
 ,
 幼
 な
 心
 に
 も
 知
 は
 ,
 工
 門

海大師、有難さ、奥へて訪り、世には傳へる

ふ
あ
ま
も
う
た
と
感
ふ
あ
ま
も
う
た
と
感

書
書
去
讀
子
頃
以
方
了
2
.
新
は
—
了
9
芝
貝
也

1
12
6

後の片物を揚りなすて
力便する大のあすも

を
暫
く
艱
難
の
た
り

かゝ
、
同
も
なく
、
それ
は
地^ちの^の
大^お
び^び
よ^よ
こ^こ
う^う
も
新^{しん}

つた。同時に、教母の言葉が、うりであつた。
も解つた。

と言つて、知は、感謝不足か、英雄心や、

~~教母~~教母のや、信仰を生たとは主観になり。

亦、教訓は、わりのあつたは夏、こも結核

に正にない。

教母は却ち、私に、不幸なもので、意

木斗、偉大なるもの存在を謝植につけた。

現在、五木が第12集から、教訓であ

り、^{うき}讀みあつても、私に心の底には、あつた

あつた言葉の何かがあつた。珍しく、

それには生感の私に、この陰を創るもの、

なつた。

私に看つた當時の私に、最も悔み、

、微笑を禁じ得たか、たつた。一つは、ア

人、私の大も、矢、私に、私に、こつた大

師から戴つた後、片断を揚げ、小用を達する

てこつた。

教訓とは何か。教母は、~~美~~美を教へた。

手島郎。

或る時、手島郎、奇術師達と會合して、
會を組織して、會長の選挙を一手に執る。

各々、その選挙に候補者名を書き、順

々に順子を通し、それぞれに送り入れ、たゞ

うむ、すまじ、憎む、最後迄、~~進め~~、来る時は

は、投票、左用紙は一枚も信入、こゝろ方角ノ

左へい。

つまり、いんた場合でも手島、奇術も便は

るに、居る、結前、手島郎は、手島で

想を、手島で滅び、人用は、お耳に、よく友

も、い、な、か、知、る。

法律も現るもの、法律、り、か、る、本、は、

創も、抱、る、も、う、新、創、に、感、有、る、と、言、ふ、も、宣、い、あ

る。

法律、い、人、を、知、り、て、る、も、う、は、矢、つ、張、院

法律、の、個、の、目、あ、る、道、本、を、て、こ、は、も、来、な、り、も

の、た、い、~~悪、法、を、知、る、は、~~、~~悪、法、を、知、る、は、~~

活字造り

用筆

新装等々、フ、フ、モ、サ、フ、ア、

物に人眼を留めしめ、心をなやましむ、

即心、如、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

同様に

よく我儘、我儘、我儘、我儘、

あ、お、と

人前、河、た、い、砲、火、り、何、り、何、り、

あ、お、と、い、い、い、い、い、い、い、い、

題、意、如、此、也、也、也、也、也、也、也、也、

あ、お、と、い、い、い、い、い、い、い、い、

あ、お、と、い、い、い、い、い、い、い、い、

肝

心、心、心、心、心、心、心、心、

煙草の魅力

為事業本、右後で、柳子。振元や、芝生に
 身体を投げ出して、煙草一服の甚は実に美味り
 あり。つとむく息に、想ふ、文藝、和や外に、ほく、
 て来る。紫、煙草の、尖端に、細く吐き、
 うも、甚な、心、奇術、列も、あ、妙、及、
 七、と、光、目、左、も、た、考、入、了。

宅後、退屈、左、科、鳥、疲、切、あ、の、た、志、
 心、話、し、の、繼、続、は、セ、外、也、物、した、感、
 懐、つ、くり、文、を、夢、付、了、餘、裕、を、抱、了、
 変、を、別、了、上、も、何、と、な、く、甚、は、花、室、な、感、
 と、り、の、文、持、七、あ、つ、る、氣、分、の、轉、
 を、考、つ、了、に、は、限、り、な、き、妙、味、
 併、し、詩、書、し、る、要、望、な、柳、や、創、作、に、行、き、
 った、心、草、の、吸、回、の、吸、は、煙、草、は、それ、
 長、の、一、本、や、二、本、な、う、い、ふ、三、本、に、なり、
 な、り、一、本、書、つ、て、一、本、二、本、書、き、詩、つ、て、
 三、本、に、なり、と、も、う、煙、草、の、考、つ、了、
 文、藝、と、中、し、り、と、言、う、た、も、の、は、
 文、藝、に、納、入、

力たポロリタリ中は、一動資本家の做爲たる
 政界操縦にともなひ、僑商界の急轉シ我ら同胞
 へ、更に劣價の奔馳に依り、生活の搖搖たる
 窮狀に墮入りはせしめしめり
 或は言ふ。山價の暴落は、我ら日本産業
 界の過則たる上、希少な民を害するたうこと。
 之に、必然の如きを辨明するに、生産額
 の増、輸出増加、信託金融の發達、等々は、
 一般民衆の漸くはす豊大方なり。轉じて、
 資本家の欺瞞的言に過ぎぬといふあり。
 生産界の活動は古來、生産過剰と、弊を不能
 なくせし界の不足を~~補~~購置する戒に依り、
 斯る面には是れを~~補~~補うなり。
 之に、貿易は、替り、揺蕩にす。所幣通貨
 の膨張と来たり。更に物價の上昇と、
 舊の生活の度をも脅かすことになりし、
 大々動は、爲政者に於て、同時に一兼資本
 家に於て、多感な爲め、如き一からして、
 悲劇を成は、現在の若輩、その他、替行運
 動を創設し、由々一々結果を振おさるゝ

か、勘方くも、これだけには断言できません。

要つて、多り甲斐、無い政策を弄する気或、
政黨の権力の許に、生活、即ち此に押迫する
労働者、其比、サウイマン等、文藝的、大受之
の氣、災化がある。

今日の書身知識階級の者にして、現在、幸
々資本、同時に金融資本に金融が、可及的方有
た、た、こゝには、意識一過、其、論著、其、現
では、た、く、う、か。

則ち、いつか、今、や、左、傷、レ、モ、オ、イ
い、イ、モ、う、喰、た、り、此、金、利、金、
来、る、に、思、う、た、う、こ、い、

是、論、は、つ、ふ